

関西広域機構が京阪神などの魅力をアピールする 「関西観光セミナー」を開催

シンガポール事務所

近畿地方を中心とした 2 府 8 県と経済団体などで構成する関西広域機構(秋山喜久会長)が、11月25日(木)、シンガポールのホテルで開催した「関西観光セミナー」に出席しましたので、その概要を報告します。

同セミナーは、近年、シンガポールからの訪日旅行において、リピーターの増加とFIT(個人旅行)化が進展するなか、関西広域機構が中心となって、デスティネーションとしての大阪、神戸、京都、堺などの魅力を、シンガポールの旅行業界関係者にアピールすることを目的として開催されました。

当日は、セミナーとその後の商談会に、併せて約60名の旅行業界関係者が参加し、シンガポールの海外旅行先の1つとして人気定着してきた日本について魅力的な情報がないかと熱心に耳を傾けていました。

セミナーでは、冒頭に関西広域機構の秋山会長が「美しい景観に恵まれ、世界遺産や国宝が集積している関西の魅力を、シンガポールの多くの方に知っていただきたい。高い技術力を持つ関西は、『産業観光』、『医療観光』といった多様なニーズにも応えられる」とあいさつしました。

その後、関西空港などの交通の便の良さや観光名所、食文化などについてのビデオ映像による紹介に続き、「4 Days in KANSAI(関西を4日間で楽しむ)」と題して、京都、大阪、神戸、堺の順に、4都市の魅力について、各市の担当者によるプレゼンテーションが行われました。

プレゼンテーションでは、京都市は清水寺や金閣寺などの寺社仏閣や文化遺産、懐石料理と和菓子、舞子さんや映画村、祇園祭などの歴史的な祭りが楽しめる街として、大阪市は歴史ある「水の都」を印象付けるとともに、大阪城、海遊館やユニバーサル・スタジオ・ジャパンなどの観光地、「くいだおれ」という食文化を持つ街として、神戸市は神戸港や六甲山からの夜景などエキゾチックなイメージを強調するとともに、四季を通じた温泉の魅力、居留地の歴史を引き継ぐ建物や中華街、酒蔵、洋菓子、神戸ビーフなど



セミナー会場前のバナー



プレゼンテーションの様子



商談会の様子

を楽しめる街として、堺市は刃物の街として知られることや、仁徳天皇陵などの歴史的な見どころの存在、新鮮なシーフードを楽しめる港町として紹介され、豊富な写真が盛り込まれたスライドを見ていると、あたかも1つのツアーに参加しているような気分させられました。

セミナーに引き続き行われた商談会では、大阪、神戸、京都、堺の4都市に加え、関西地方のホテル、テーマパーク等のブースも設けられ、参加したシンガポールの旅行代理店関係者と新たな旅行商品開発などについて活発に意見交換が行われていました。

イベントの終わりに、参加した自治体4市を代表して、大阪市の花田公絵観光担当部長から、「シンガポールでは日本観光といえば、東京と北海道という方がまだまだ多い印象だが、この機会に関西4市も覚えてもらい、足を運んでほしい」とのコメントがあり、今回のセミナーの手応えと開催効果に大いに期待を寄せていることが感じられました。

また、今回のセミナー開催に併せて、関西広域機構、4市担当者並びに関西地方のホテル、テーマパーク担当で構成される観光セミナー班による精力的なセールスコールが行われたほか、秋山関西電力相談役（関西広域機構会長）を筆頭に関西経済連合会や大阪国際会議場、関西国際空港等の経済界代表者で構成される経済ミッション班が、日本大使館をはじめ、シンガポール日本商工会議所やシンガポール政府観光局を訪問し、観光戦略などについて活発な意見交換を行いました。

なお、今回11月22日（月）から始まった当機構の海外観光プロモーションの前半においては、マレーシアのクアラルンプールにおいてもシンガポールで行われたのと同様のPR活動が行われました。

（関西広域機構主催「関西観光セミナー」への参加時の聞き取り内容等 参照）

（井口調査役 兵庫県派遣）

CLAIR